

# 若年性認知症の方の 就労から支援までの支援



特定非営利活動法人 ほっぷの森  
就労支援センターほっぷ 藤野朗子

## 就労支援センターほっぷ（就労移行支援事業所）について

- 開所：平成19年9月  
開所当初から高次脳機能障害（頭部外傷・脳血管障害・失語症）の方を受け入れている。  
現在利用者20名中、高次脳機能障害17名、若年性アルツハイマー1名。
- 高次脳機能障害者受入実績： 124名
- アルツハイマー型認知症受入実績： 3名
- 高次脳機能障害者受入時平均年齢：平均41.7歳
- アルツハイマー型認知症受入年齢：平均52.6歳
- 高次脳機能障害者就労実績： 85名（内訳：復職・障害者求人70名、A型15名）
- アルツハイマー型認知症就労実績：1名（障害者求人）

## ほっぷの活動

### ▶ プログラム ー様々なプログラムを提供

ほっぷ プログラム <2019年(令和元年) 10月28日~11月1日>					
時間	10月28日(月)	10月29日(火)	10月30日(水)	10月31日(木)	11月1日(金)
1	10:00 ~ 10:50	10:00 ~ 10:50	10:00 ~ 10:50	10:00 ~ 10:50	10:00 ~ 10:50
	始めのミーティング 内容:スピーチ、今日の目標 ボイトレ、あいさつ 体操、ブレインジム	始めのミーティング 内容:スピーチ、今日の目標 ボイトレ、あいさつ 体操、ブレインジム	始めのミーティング 内容:スピーチ、今日の目標 ストレッチ 担当:スタッフ	始めのミーティング 内容:スピーチ、今日の目標 ボイトレ、あいさつ 体操、ブレインジム	始めのミーティング 内容:スピーチ、今日の目標 ボイトレ、あいさつ 体操、ブレインジム
2	11:00 ~ 12:00	11:00 ~ 12:00	11:00 ~ 12:00	11:00 ~ 12:00	11:00 ~ 12:00
	栄養管理講座③ 内容:食生活を考える 講師:	音楽プログラム 内容:音楽を楽しむ 講師:	文章表現 内容:表現力をつける 担当:	文章理解 内容:テキストの朗読と要約 担当:	作業と身体 内容:身体の使い方 担当:
3	13:00 ~ 13:50	13:00 ~ 13:50	13:00 ~ 13:50	13:00 ~ 13:50	13:00 ~ 13:50
	スポーツコミュニケーション 内容:スポーツを楽しむ 担当:	秋の行事に向けて⑤ 内容:取り組み確認 担当:	就職に向けて 内容:活動報告等 担当:	Bトレ 内容:注意・記憶力のトレーニング 担当:	メモリーノート 内容:メモリーノートの活用 担当:
4	14:00 ~ 14:50	14:00 ~ 14:50	14:00 ~ 14:50	14:00 ~ 14:50	14:00 ~ 14:50
	セルフトレーニング 内容:各自目標に向けての 取り組み 担当:	セルフトレーニング 内容:各自目標に向けての 取り組み 担当:	セルフトレーニング 内容:各自目標に向けての 取り組み 担当:	セルフトレーニング 内容:各自目標に向けての 取り組み 担当:	セルフトレーニング 内容:各自目標に向けての 取り組み 担当:
5	15:00 ~ 16:00	15:00 ~ 16:00	15:00 ~ 16:00	15:00 ~ 16:00	15:00 ~ 16:00
	終わりのミーティング 内容:Bトレ 今日の振り返り 明日の確認	終わりのミーティング 内容:Bトレ 今日の振り返り 明日の確認	終わりのミーティング 内容:今日の振り返り 明日の確認	終わりのミーティング 内容:明日の確認	終わりのミーティング 内容:Bトレ 今日の振り返り 来週の確認
その他の 予定	職場実習:宜城風庁 9時~16時 スタッフ:				

### ▶ メモリーノート

ーメモをするトレーニングの教材として



### ▶ セルフトレーニング ー各自就労に向けて必要なトレーニングを自分で決めて行う。



その他、健康管理講座、ボイストレーニング、ペタンクなどのスポーツ、季節の行事、企業見学・実習などを行っている。

## 対象者情報

- ▶ Aさん（50代後半）
- ▶ ほっぷ利用開始：平成29年1月～
- ▶ 精神保健福祉手帳2級
- ▶ 発症時の職種：営業職
- ▶ 病状について：
  - 50代前半頃から物忘れなどの症状が出始める。
  - 人との関わりあいの中でうつ症状がでる。
  - 症状が出始めて3年後に仕事を辞められる。
- ▶ 診断：平成28年に認知症と診断を受ける。
- ▶ ほっぷへのつながり：通院先からの紹介。
- ▶ 平成29年1月～利用開始

## ほっぷでの様子

- プログラムの内容を覚えることは難しい。
  - ホワイトボードに書かれた一日のスケジュールで確認。  
支援者に随時確認。
- プログラムの切り替えの時間などに周囲が動き出すと、次になにをするのかがわからず困ってしまう。
  - 支援者から声がけ行う。
- 発症前より怒りに対して抑制が効かないことを気にかけていた。
  - 気持ちを切り替えられずに数日休むこともあった。
- 皆を盛り上げる中心的存在。会話が好きで、冗談を言うなど皆を和ませてくれる。

## 就労にあたっての課題

①忘れてしまう



②記憶が定着しづらい



新しく覚えることが  
むずかしい

③場所の把握が難しい



どこにいるのか  
わからなくなる

④確認が難しい



何を確認していいのか  
わからないことがある

⑤イレギュラーに対応できない

想定外のことはいつも初めての  
ことなのであせってしまう



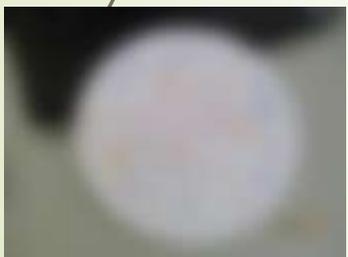
## ジョブコーチ支援

### ①更衣室までの道筋を示したカード



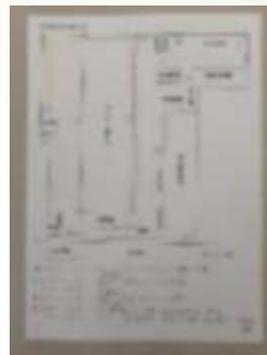
→使うことがむずかしかった  
同僚と行き来することで定着

### ③当日使用する用具を確認する順番表



→同僚からの提案で作成

### ②敷地地図を利用したマニュアル



→使うことがむずかしかった  
同僚から指示をもらいながら行う

### ④状況の聞き取り

障害の違う3名同時の支援。一緒に仕事をしていくため  
お互いを理解していけるよう話し合いなど行う



## 定着支援

- 病状の進行に合わせて、できることをどのようにして維持していくか、できなくなってきたことに対してどのような対策をとるか。

### 〈みだしなみ〉

ベルトを締めることができない。手袋を正しくはめることが難しい。  
服の前後の判断に時間がかかる。

→ 自宅から制服を着ていく

### 〈連絡〉

バッグの中に入っているメモを忘れず提出することが難しいので、  
上司に希望の休みを伝達できない。

→ 奥様から会社に直接電話をすることにした

### 〈体調管理〉

気温の低下とともに体調症状共に悪化。

→ 期間を決めて労働時間を1時間短縮した

### 〈ストレス発散〉

共有できる話題がなく同じ話を何度もするため、話をできるひとがない。

→ 落ち着いた静かな場所で話を聞く

## 若年性認知症の方の働き方

- 共にはたらくだれかがいるから  
安心して働ける

「忘れてしまっていないか」「間違っただけをしていないか」  
常に不安を抱えているため、常にそばに誰かがいて  
指示をくれる、わからないことをきけることが、  
ご本人たちにとって大事なことである。

## 若年性認知症の方の支援

- 支援が変化する

  - 作業の定着から機能の現状維持へ

    - 毎日のルーティーンが定着したのちは、効率や能率の向上のための支援より、働き続けるために、現在の症状をなるべく維持することが優先される

- 周りの人のストレスを減らすことも支援

  - ご本人が働きやすい環境を整えるための指導や支援はもとより、ご本人に直接関わる方々の不安やストレスを少なくすることがご本人への支援につながる

- 話すことで安心できる

  - 話を聞くこと、元気をあげることが支援

ありがとうございました。